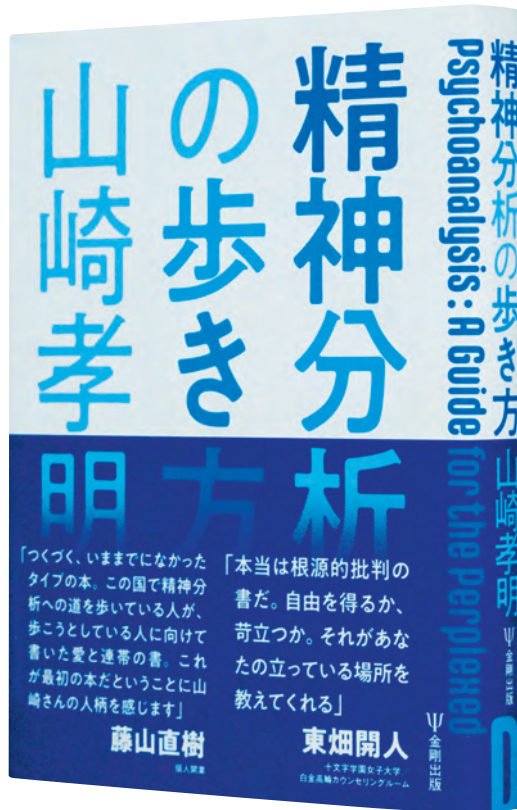


Trends in Psychiatry

Theme

書籍 『精神分析の歩き方』



書籍紹介

『精神分析の歩き方』
著者：山崎孝明
発行：金剛出版(2021年)

とかく近づきたい印象を与えがちな精神分析の印象を払拭するため、その面白さや有効性を「外」の人に向けて懇切丁寧に紹介した「日本精神分析のガイドブック」。精神分析に関心のある初学者を対象としながら、精神分析を相対化するような痛烈な批判を織り込み、他ならぬ「いま」における精神分析の存在意義を問うた一冊。本書の試みは幅広い層から支持を得て、人文書を対象とする「紀伊國屋じんぶん大賞2022」で第11位にランクインした。

はじめての著書だそうですが、執筆の経緯について教えてください。

フロイトが創設した国際精神分析学会(International Psychoanalytical Association: IPA)の操作的定義によると、週3~4回以上のセッションをもつことが精神分析の条件であり、週2~3回以下の頻度のものは精神分析的な心理療法と呼ぶこととなっています。私がこれまで実践し

てきたのは精神分析的な心理療法であり、精神分析の純度を守ることによってこたわる立場の人は、私が精神分析を語ることに違和感があるかもしれません。

しかし今、心理臨床界や精神医学界において、さらには社会において精神分析の旗色が悪くなっていることは否めない事実です。精神分析は絶滅とはいわないまでも、絶滅危惧種となってアクセスしづらいもの

になってしまうでしょう。そうなることは社会にとってもつたいないことだと思いますし、個人的にも精神分析に滅んでほしくないと思っています。

そうならないためには精神分析の敷居を下げ、その面白さと有効性をわかりやすく伝えていく必要があります。本物はそんなことをしなくても勝手に見出されるという考えは、この情報化社会においてあまりにもナイーブな考えです。精神分析コミュ